



ニュース > 北海道

PR

PR 【サントリー公式】50代以上注目のサブリ... サントリー

## 停電に備え小規模送電網 釧路市や阿寒農協が構築へ

01/22 00:02 更新

【釧路】釧路市や阿寒農協（釧路市阿寒町）などは21日、災害などによる大規模停電時にバイオガス発電などを利用し、地域内の電力をまかなう小規模送電網（マイクログリッド）構築事業を行うための協定を結んだ。2023年3月の稼働を目指しており、実現すれば既存の配電線網を使った同事業は道内初めて。

災害時に北海道電力の送電網の一部と切り離し、地域内の牛ふん尿を活用したバイオガス発電施設や太陽光発電施設から周辺に電力を供給する。計画では大規模停電時に、市指定避難場所になっている多目的センターと、酪農施設14カ所、民家25軒に少なくとも3日以上、電力が供給される。

総事業費10億円。地元の農業法人などが出資する事業会社「阿寒マイクログリッド」（釧路市阿寒町）が昨年6月に経済産業省の補助事業に採択され、昨年9月からバイオガス発電施設の建設を始めた。

協定書締結式には同社の小峯充史社長、釧路市の秋里喜久治副市長、阿寒農協の野村宏組合長、送配電事業会社の北海道電力ネットワークの米倉幸泰釧路支店長らが出席。小峯社長は「事業を成功させ、道内他地域に波及させていきたい」と話した。（伊藤美穂）

電子版会員限定記事を表示しています。今月の閲覧本数：残り9本

北海道 経済



⇒北海道の最新ニュースはこちら

北海道のニュースがメールで届く

ニュースレターに無料登録

### 主要ニュース

一覧へ

<速報> 札幌の新規感染者880人台 高水準続く

大雪なのに…除雪ボランティア確保難しく



JRきょうは平常運転 冬型気圧配置緩む

氷と雪の部屋で非日常体験 芸森ワーサム



内閣支持率低下55% 全国電話世論調査



小清水町役場でクラスター 町長、教育長も

リフト50分間緊急停止 芽室のスキー場

PR